

中河内最大の前方後円墳

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

しおんじやまこふん  
心合寺山古墳



西から



墳丘西から



全景南から



前方部の復元



春埴輪列

**所在地：** 八尾市大竹4丁目・5丁目  
八尾市大竹5-143-2[しおんじやま古墳学習館]  
**最寄駅：** 近鉄信貴線服部川駅から北へ徒歩約20分  
近鉄バス瓢箪山駅行き「大竹」バス停下車  
東に徒歩約5分  
**開館時間：** 午前9時～午後5時  
**入館料：** 大人200円、高校生・大学生100円  
(20人以上の団体は半額)  
**休館日：** 毎週火曜日・祝日の翌日・年末年始(12/28～1/5)  
**TEL：** 072-941-3114

八尾市東部の高安山山麓には数多くの貴重な歴史遺産があるが、なかでも心合寺山古墳は、全長160メートル、古墳時代中期に造られた中河内最大の前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)で、当時この地域一体を治めていた王の墓と考えられおり、国指定文化財(史跡)に指定させている。古墳からは、甲冑・き鳳鏡・大刀・鉄剣・玉類などの副葬品、家や盾や鶏などの形象埴輪・円筒埴輪・朝顔形埴輪、また、水の祭祀を表した埴輪などが出土している。指定面積は約30,000平米である。これまでの発掘調査によって、古墳は3段に土が盛られ、平らなところには円筒埴輪と呼ばれる筒型の埴輪が立てられ、盛った土の斜めの所には、葺石(ふきいし)と呼ばれる石を置いていたことがわかっている。また、後円部と呼ばれる北側の丸い方の丘には、3つの埋葬施設があり、前方部と呼ばれる南側の四角い丘には、方形壇(ほうけいだん)と呼ばれる四角い台があり、後円部と前方部の間のくびれ部には、造り出し(つくりだし)と呼ばれる舞台のようなものもあった。ちなみに、心合寺山(しおんじやま)という、読みにくい名前は、この古墳の西側に飛鳥時代につくられた寺院・心合寺(しんごうじ)に由来していると考えられている。そして、その寺院もなくなり、古墳だけが現在まで残っていたが、平成13年から17年にかけての史跡整備事業において、発掘調査を元に墳丘や埴輪列を復元した。心合寺山古墳が、約1,600年前(5世紀はじめ頃)の時を越えて、当時の姿にもどり、歴史を体感できる場として生まれ変わった。また、隣接する「しおんじやま古墳学習館」では、心合寺山古墳の出土品を中心とした展示を通して、案内・展示、体験学習など楽しく歴史を学べる施設とし平成17年度にオープンした。皆さんも、先人たちの足跡に思いをはせ、高安山・生駒山地の豊かな歴史や文化財とふれあってみてはいかがでしょうか。(新田俊明)